



動労千葉

1988.6.3
No.2829

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

連労鉄

「スト絶滅」を叫ぶ専ら鉄道労連を打倒しよう

五月一八日千葉駅、二〇日亀戸駅、二七日千葉みなと駅と連続してうちぬかれたストライキは、当局・警察権力の異常な弾圧体制をはねのけ、大勝利をかちとっている。動労千葉組合員の連日の大量決起と支援の輪の拡大、街頭宣伝での労働者・市民のストライキへの共感など、この長期波状ストライキは「四・一分割・民営化体制」粉砕にむけた大きなうねりを作りだしている。とりわけ、「スト絶滅」「一企業・一組合」を「党是」としている鉄道労連は、動労千葉がストライキでたちあがったことに大打撃をうけ完全に沈黙してしまっている。

「ストのないJR」は
元△王に打ち砕かれた

鉄道労連革マルは四月国労ストに対して「無意味なスト」などと悪罵をなげつけ、当局と一体となった国労・動労総連合破壊に出てきた。千葉では、鉄道労連革マルと手を組んだ車務課長・河野らが動労千葉脱退工作を行うとともに、動労千葉の役員・活動家へのみせしめ的大量不当処分と駅・売店などへの強制配転をもって動労千葉根絶やし攻撃に出てきた。

ところが動労千葉が長期波状ストでたたかいはじめると、こうした当局「革マル連合は危機に突入してしまったのだ」。

しかも、「ストなしJR」どころか、あちらこちらでストライキが爆発する事態をたたくつけられたのだ。実力ストライキがついに「四・一分割・民営化体制」をゆるがしはじめたのだ。

革マル問題が再燃
— 東鉄労

一方、東鉄労の中で、再び革マル問題が発生している。

旧鉄労出身の東鉄労青婦部事務局長「清野伸一が革マル松崎によって「組合員権停止」処分される」という事態が起こった。理由は清野が三月四日に「三月三日革マル松下襲撃事件の中核派の犯行声明を持っていたこと」「『本当は富岡か古川（いずれも革マル分子）のほずであったが、二人がつかまらないので松下がやられた』と話していた」というものである。この統制処分をめぐって旧鉄労出身の五名の専従役員（千葉の勝又ら）は「処分を強行するなら辞任する」というところまで問題は至っているのだ。

このことから明らかなように、「鉄道労連」そのものが「数は多い」と言っているものの実態は、「ダメエだけいい子」になり、身も心も当局・自民党に売り渡し、現場の労働者のおかれている現状などおさまいなしに、「権力欲」にかられている腐り果てた「集団」であるがゆえに、革マルと鉄労、そして当局も加わっての内部抗争が絶えない「団結」などとは無縁な代物である。

鉄道労連は八月八日に予定されている鉄道労連の反動集会までに「組織率七五％達成方針」をうちだしている。しかし、そのとたんに再び革マル問題が発生し、そして、動労千葉の長期波状ストがたたきつけられたのだ。

長期波状ストの前進を

このように動労千葉のストライキ闘争は「スト絶滅」「一企業・一組合」を実力で粉砕し、全国の国鉄労働者の決起をつくりだす突破口をきりひらいている。「四・一分割・民営化体制」粉砕・鉄道労連打倒へさらに長期・強靱な波状ストライキをたたきつけよう。スト支援のため駅や売店にかけつけよう。動労千葉根絶やし策動を全組合員の怒りの決起で粉砕しよう！